平成３０年度が始まりました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all.　№50

＊エイリョウ・アラカルト　「吹奏楽局、大忙し！」

天候不順で、学校祭準備等も滞った状況が続いています。野球の支部大会も順延が繰り返され全校応援の予定を立てるのにも一苦労です。



そんな中、スケジュールどおりとはいえ大忙しなのが吹奏楽局。６月３０日には永山西小、永山南小、永山南中の皆さんと「アップルコンサート」を開催、７月１日は「永山神社祭交通安全パレード」に参加、その他にも教育実習生激励ミニコンサート、野球全校応援準備、学校祭ステージ準備とてんやわんやといったところでしょうか。



それだけ地域の皆様に親しまれ、校内生徒から頼りにされている吹奏楽局の皆さんは本校の誇りでもあります。寒暖の差が激しい時季だけに、健康管理にはくれぐれも気をつけて欲しいと思います。

吹奏楽局の皆さん、ガンバです！

All for one, and one for all.　№51

H30. 7. 2　「学校説明会」

中学校で主に進路指導をされている先生方を対象に「学校説明会」を開催しました。ご多用の中、市内中学校及び近隣の中学校から多くの先生方にご来校いただき、厚く感謝申し上げます。



単位制完成年度となる本校の教育活動の詳細をご説明させていただき、現中学３年生の皆さんの進路指導に少しでも役立てていただきたいというのが今回の趣旨です。

教務からは多様な進路に対応できる教育課程や様々な授業形態、進路からは大学入学共通テストに備えた実践等を中心にご説明申し上げました。

本校の特色や実践が先生方を通して多くの受検生の皆さんに届けていただけたら幸いです。秋には生徒の皆さんを対象とした説明会も予定しています。多数の受検生に本校の魅力を知っていただけることを願っています。

All for one, and one for all.　№52

H30. 7. 7　「第３回永嶺祭」

雨天続きで心配された学校祭準備も、生徒の頑張りにより無事初日を迎えることができました。体育館で行われた開会式とオープニングセレモニーは、これまでの疲れを感じさせない程の大盛り上がり。ファンファーレに続く総務実行委員長の力強い開催宣言、生バンドによる永嶺祭のために作られた楽曲披露、有志による学園ドラマ、EIRYOUSTATIONでの吹奏楽局の演奏、それに負けじと各年次教職員によるカラオケ等々、学校全体が一体となるエネルギッシュな開会式でした。





続いて行われたのは、「連合対抗ステージ発表」。これは永嶺生が楽しみにしている取組の一つで、１年次から３年次までが縦割りに７つの「連合」を形成し、それぞれがダンスを披露するというものです。「横」の結束はもちろんですが、「縦」の関係をも良好にし、永嶺生全体の「大きな結びつき」を大切にしているところが本校の強みです。先輩が後輩の面倒を見、後輩が先輩を敬う関係は部活以外でも行われています。






さらに永嶺祭の目玉は、なんと言っても「クラスパビリオン」。各教室を異次元の世界に作り替え、見る者を現実からかけ離れた世界へと誘ってくれます。



























どのクラスにも努力の跡が見られ、短期間でここまで作り上げた生徒たちに心から敬意を表します。特に３年次生の独創性やリアリティを追求した出来映えは見事です。

その他にも、書道部・美術部・写真部の作品展示や国際クラブの活動紹介、放送局のＶＴＲ上映が永嶺祭を一層充実させ盛り上げています。



作品展が素晴らしいのは言うまでもありませんが、廊下には書道を選択している一般生徒の作品も展示されており、こちらも見応えがあります。

夕方には、保護者の皆様のみ参観可能な「部活動対抗カラオケ」が体育館で繰り広げられました。ダンスあり、アクロバットあり、男装・女装ありと趣向を凝らしての熱演に、ご来校いただいた多くの皆様が楽しまれたことと思います。



中夜祭はグランドに移動し、「未成年の主張」「ファイヤーストーム」「スライド上映」「花火」が行われました。寒い中でしたが、生徒たちの熱い思いが交錯し、明るく元気な笑い声と喝采が沸き起こりました。



朝から晩まで盛り沢山の催しでしたが、生徒自らの手で創り上げた永嶺祭を思う存分満喫しながら、永嶺生としての絆をより強固なものとし、生涯の良き思い出になってくれることを願いながら初日を終了しました。

All for one, and one for all.　№53

H30. 7. ８　「続　第３回永嶺祭」

２日目は一般公開日。当初予想された悪天候も何とか持ちこたえ、少し汗ばむほどの好天に恵まれました。お蔭で来校者の出足も繁く、クラスパビリオン・模擬店・各ステージは大賑わい。生徒も昨日の疲れはどこへやら、「おもてなしの精神」を第一に来校者の皆様を迎えていました。

模擬店は２・３年次生により商品がかぶらないよう工夫しての出店。それぞれの店構え

からは生徒の元気の良い声が飛び交います。さらにＰＴＡ・吹奏楽局保護者からは変わり種の商品も並び、見ているだけで良い香りと楽しい雰囲気が漂います。その脇のステージからは生徒によるバンド演奏が流れてきました。





体育館ステージでは演劇部や吹奏楽局が活動発表、作法室前では茶道部がお茶を点てています。玄関入り口には新聞局発行の永嶺新聞を掲載、ＬＣＣによるマドレーヌ販売等と文化部もフル稼働の一日となりました。





今年度は全校生徒が８００名を越え、それぞれの活動にもより一層磨きがかかってきました。体育系は殆どの部が全道出場を果たし、今回のように文化系も確かな歩みを続けています。

学校祭がかつて文化祭と呼ばれたように、本校では日々の文化部の活動の成果を多くの皆さんに見ていただく機会として学校祭を位置づけています。

個性や能力を最大限に伸ばし、主体的に創造していく力を育み、社会性を身につさせる、それが永嶺祭のモットーです。

All for one, and one for all.　№54

H30. 7.13　「ＡＬＴ」

「ＡＬＴ」とは「アシスタント・ランゲージ・ティーチャー」の略で、外国語の指導助手の方々を指します。ネイティブな英語に慣れるため、世界各地から来日されている「ＡＬＴ」の皆さんに、主にティームティーチングの形態で授業をお手伝いいただいています。



今年度、新たな先生をお迎えすることになりましたのでご紹介いたします。お名前はハガィスキ・マイケル先生、アメリカシカゴのご出身とのことです。来日２年目というのに日本語が実に堪能で驚きました。

趣味は釣り、写真、野球観戦と多岐にわたり、野球チームではシカゴカブスと日本ハムファイターズがお気に入りとのこと。明るく気さくで穏やか、そしてとても心温かなお人柄のマイケル先生でした。

All for one, and one for all.　№55

H30. 7.13　「留学を終えて」

１年間カナダのバンクーバーに留学していた３年次生 田上 莉紗さんが帰国報告をしてくれました。話を交わしながら感じたことは、「とても前向きでしっかりとした考えを持っている！」ということです。留学での様々な体験が彼女をより大きく成長させたのだと思いました。



留学を決意した動機は、国際交流での体験や英語のスキルアップ願望、海外への憧れなどだったそうです。当初は英語のコミュニケーションが思うようにいかず不安な日々もあったとのことですが、初心を忘れず、ホームスティの温かさや先生方の熱心な指導に助けられ、徐々に積極性が出てきたと話してくれました。クラスメイトだけでなく世界各地からの留学生から異国の文化や様々な考え方を学び、視野を大きく広げられたことでしょう。



【担任とのツーショット】

日本との授業の違いは、自分に必要な科目を選択し、それを主体的に学び、わからないことが出てくれば自ら先生に聞きに行くというスタイル。それだけに理解し吸収する内容や深さも大きかったようです。また、文化や考え方の違いを直に肌で感じることのできたこの貴重な経験は、今後の田上さんの人生にとって大きな宝物になることは間違いありません。

田上さんのお話は、聞いていてとても心地よく歯切れの良さを感じました。この一年間、しっかりと学び、多くのことを確実に吸収できている証だと思います！

All for one, and one for all.　№56

H30. 7.17　「高大教科連携」

昨年度から本格的に始めた旭川医科大学との「高大教科（生物）連携」が、さらにバージョンアップしました。

旭川医科大学で「看護学講座形態機能学領域」を担当されている平　義樹先生にご来校いただき、「動物の体を単純にみる仕組み」と題した生体（組織）学についてご講話をいただきました。



スライドとペーパー資料を併用し、「生体→組織学→構造の単純化から複雑化へ→実際の組織」と徐々に学習内容は深化していきます。

不思議なことに、大学で学ぶ内容であるにも関わらず、単純な内容をしっかり理解した上で複雑な内容へと段階的に学習を進めることで、全てが解明され、とてもよくわかる講義へと繋がっていきます。

「わかる授業」、これは私たち教師の永遠の目標です。生徒は短時間で複雑な「体の構造」を理解し、より関心を持ち始めたようです。

All for one, and one for all.　№57

H30. 7.19　「保健講座」

２年次生対象の「保健講座」を、旭川厚生病院緩和ケア認定看護師 今野 なぎさ 様を講師にお迎えし実施しました。例年、各年次ごとに異なる内容の講座を行い、それぞれの年次に相応しい内容を検討しながら実施計画を立てます。



今回は「がんと向きあう～いのちを見つめて」と題し、がんに対する正しい知識、望ましい生活習慣、さらには命の尊さ等について学ぶ機会を設けました。

前段階として養護教諭主導によるグループワークを行い、講演内容をより深く理解するために生徒自身が「がん」について考えることから始めました。続く講演では、「がんは、誰にとっても身近な病気であること」「がんを防ぐ生活習慣」「早期発見のための検診の重要性」などについて詳細なお話を伺いました。

医療が飛躍的に進歩している現代において、あらゆる病気について正しい理解を持ち、日頃から自らの体をケアーしていくことの重要性を改めて痛感する講座でした。

All for one, and one for all.　№58

H30. 7.20　「大学出前講座」

２年次生を対象に「大学出前講座」を実施しました。学校祭を終えたところで気持ちを切り替え、将来について真剣に考える時期と捉え行っています。

道内１３大学から講師の先生にお越しいただき、個別の大学についてではなく、大学で研究する分野ごとの特徴についてお話を伺いました。医療系、看護系、教育系、家政・栄養系、理工系、文学系、幼児教育系、経済系、語学系、心理・カウンセリング系、法学系などの分野ごとに分かれ、生徒自ら興味関心を深めました。







また、終了後には３年次生対象の大学説明会も行っていただきました。こちらは希望大学のについての理解を深めることに加え、より詳細な話から「受験」に向かう学習意欲の啓発に繋げてもらうことがねらいです。

夏季休業を有意義な時間にするためにも、一人一人の前向きな取組に期待しています！

All for one, and one for all.　№59

H30. 7.22　「サマーコンサート」

暑い夏を明るく元気に乗り切ろう！そんなメッセージが伝わってくる吹奏楽局「サマーコンサート」が公会堂で開かれました。



パワフルで躍動感溢れる演奏は定番ですが、この日は北門中・神居中吹奏楽部の皆さんがゲスト出演してくれたこともあり、会場はいつも以上に盛り上がりました。中学生の皆さんもコンサートに完全に溶け込み、素晴らしい演奏を聴かせてくれました。

ディズニーワールド、ヒットナンバーメドレー、野球応援、ダンプレ、ソーラン節など大人から子どもまで、どの世代もが楽しめる実に活気に満ちた演奏会でした。

次回は１０月１３日（土）開催の「オータムコンサート」。スペシャルゲストを招いての新たな構成が今から楽しみです！

All for one, and one for all.　№60

H30. 7.23　「全国、壮行会」



高体連全道大会で見事「団体優勝」を果たした弓道部が、８月２日から静岡県で開催される全国大会に参加します。技術はもちろんですが、全道を制覇するには精神的な強さも要求される競技だけに、今回の団体優勝は喜びも一入です。この勢いを持続し部員の力を結束することで、旭川永嶺の名を全国に轟かせてきてくれることを期待しています。

道北支部の代表として、そして北海道の代表として、日頃の成果を精一杯発揮してきてください。全校を挙げて応援しています！



また、東京で行われる放送全国大会に出場する面々は、本日の壮行会を前に学校を出発しました。初めての経験に緊張もあるかと思いますが、全校大会の景色を目に焼き付け、一層高いレベルを目指して欲しいと思います。

在校生の応援する熱い思いが伝わりますように！

All for one, and one for all.　№61

H30. 7.22　「留学報告会」

この度、カナダバンクーバーへの１年の留学を終え帰校した３年次生 田上 莉紗さんが校内報告会を行いました。体育館は暑さで熱気ムンムンでしたが、在校生は静かに留学の動機や外国特有の街並、異なる文化などの説明に真剣に耳を傾けていました。



本校では中・長期にわたる留学やアジアを中心にした短期研修を推進し、希望者も年度を追うごとに増えています。未来の社会に向け、一人でも多くの生徒に「グローバル感覚」を身につけてもらいたい、それが教職員の願いです。

報告会はわずか１５分程度でしたが、要点がよくまとめられ、動画スライドも構成されているなど、実に素晴らしい内容でした。

All for one, and one for all.　№62

H30. 7.22　「あたたか～い、心遣い」

校長室から階段を上り職員室に向かう途中、ふと角に目を遣ると、見事な花が飾られていました。「誰が置いた花かな？」と近づいてみると、中に札が入っており、送り主は「野球部父母の会」、受取主は「吹奏楽部（局？）」と書かれていました。



察するところ、野球部の応援には必ず吹奏楽局と応援団が駆けつけており、そのお礼といったところでしょうか。聞くところによると、毎年この時期に吹奏楽局の「サマーコンサート」に向けて贈られているとのことでした。花の美しさもさることながら、異なる部の保護者と生徒間の「ほのぼのとした関係」に心が癒やされます。

人は自分（たち）の置かれている状況だけを、あるいは自分（たち）だけのことをついつい考えがちです。しかし、その状況には実は様々な人々の「支えや助け、応援」が絡んでいるものです。

野球部父母の会の皆さんは、陰の大きな支えになっていた吹奏楽局の皆さんのことを思い、温かな心遣いを寄せてくれたのでしょう。生徒たちにも、そうした心の機微が感じられる人間になって欲しいものです。

All for one, and one for all.　№63

H30. 7.23　「夏季講習」

生徒たちは、今日から夏季休業に入りました。とは言え、殆どの生徒が「夏期講習」を受けています。１年次生は「振り返りと基礎固め」、２年次生は「得意科目の伸長と不得意科目の克服」、３年次生は「進路に向けた受験対策」と、目的こそ違いますが、個々の進路実現に向けた勉強が始まりました。



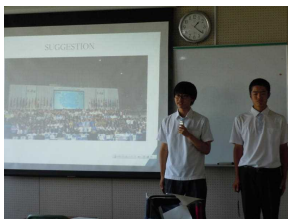
教室の暑さに負けない生徒の熱い取組が各教室で展開されています。明確な目的を持ち、自分の将来のために少しでも努力しようとする前向きな心意気は、徐々に高度な思考を形成し、やがて自信となって言動に顕れ、心の強さへと繋がっていきます。

毎日を何気なく過ごすのではなく、有意義な夏季休業となることを期待しています。

All for one, and one for all.　№64

H30. 7.26　「『国際交流の集い』の代表スピーチ」

北海道１５０年ウィークの一環として札幌で開催される「北海道の姉妹友好提携地域との会合」に出席する　３年次生　折坂君と２年次生　竹村君の練習風景を覗いてきました。



本校の国際理解や国際交流の取組を海外の方々に紹介してきます。

パワーポイントを使っての発表はとてもスムーズで、内容もわかりやすくまとめられていました。二人の息もぴったり合っていて素晴らしかったです！本番は８月４日、本校の取組を世界の多くの皆様に伝えてきてください。